

(別紙様式 = 小学校用)

都道府県番号	38
都道府県名	愛媛県

【 】
 *重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	今治市立立花小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	3	3	3	18	28
児童数	95	77	76	77	88	86	9	508	

研究の概要

(1) 研究主題

算数科における基礎・基本の確かな定着を図るための手だて

(2) 研究主題設定の趣旨

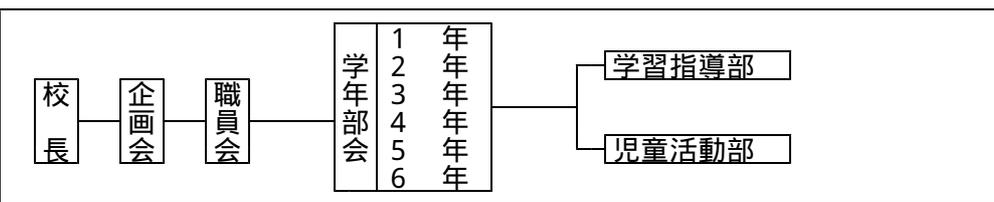
算数科の学習において、児童が今までに身に付けている学習内容や思考方法には個人差があり、こうした差異を念頭において、多様な学習形態を組み合わせしていくことが大切になってくる。そこで、本校では、習熟の度合いに配慮した少人数学習を通して、個人差に対応し、児童の学習意欲を高め、基礎・基本の確かな定着を図る指導の在り方を研究していくことをねらいとした。

本校の考える習熟の度合いに配慮した指導の根本にある理念は、児童が自らの習熟の程度を認識し、到達度に応じた学習内容を選択し、自主的・主体的に学習していく態度を育てることにある。

また、本校では、「確かな学力の定着」と「人間性の涵養」を車の両輪として進めるために、青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」力を、学習の中でも伸ばすとともに発揮することを目指している。本取組においても「気づき、考え、実行する」算数学習を追究することで、自ら課題に気づき、解決方法を考え、意欲的に学習する児童が育つと考える。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



(2) 研究の実際

研究の主な内容

- 1 少人数学習を推進するための指導体制の確立
- 2 児童が意欲的に学習に取り組む指導内容・指導方法の工夫改善
 - (1) ティームティーチングのよさを生かした指導の工夫
 - (2) 児童の意欲を喚起する算数的環境作りや学び方の指導の工夫
 - (3) 個の習熟の様子を教師及び児童が把握する工夫
 - (4) 学習したことを整理して、次の意欲へつないでいくノートの工夫
- 3 発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材の開発
 - (1) 習熟度に応じたワークシートの工夫
 - (2) 基礎・基本の定着を図るための教材・教具の活用
- 4 児童の学習意欲を高めるための評価の工夫

**児童の意欲を大切にしたい習熟度別少人数学習の考え方
～コース分けについての研究の経緯～**

研究に取り組み始めた当初、コース分けを教師主体で行っていたが、児童の自己評価力・選択能力を伸ばすことにはならないことに加え、従来の教師主導型の指導から脱却できない感があった。

そこで、診断テスト等により、児童の判断を基にしたコース選びへと移行していった。しかし、児童の漠然としたコース選びは、「算数が得意だから」「算数が苦手だから」という理由で決められることが多く、選択するコースも固定化する傾向があった。

そこで、児童が自分の算数の学力や習熟の程度を見つめ、自覚し、自分の学習の内容や方向について判断し進めていく態度や能力をさらに高めていくことが大切であると考えた。そのひとつのアプローチとして、コース分けの規準を観点別（関心・意欲・態度、数学的な考え方、表現・処理、知識・理解）に考えた授業実践に取り組んだ。

また、コースは固定せず流動的に変えてもよいこととした。それによって、児童が常に自分の学習に対する自己評価をし、自主的・主体的に算数の学習に取り組み、自分の学習を進めていくことができると考える。

指導例

学年・学級
指導者
教材
コース分け

第5学年 1組
学級担任と加配教員の2名
四角形（3 / 16）
知識・理解、表現・処理コース（若葉コース）
考え方コース（青葉コース）

本時の指導

<知識・理解、表現・処理コース（若葉コース）>

ねらい

- ・ 平行四辺形の作図をすることができる。
- ・ 平行四辺形の辺や角に着目して、平行四辺形の性質を調べ、理解することができる。

評価規準
展開

- ・ 平行な直線をかいて、平行四辺形を作図することができる。

学 習 内 容	習熟の度合いに応じた手だて
1 めあての確認をする。	
白紙に平行四辺形をかこう。	
2 辺の長さが4 cm、3 cmの平行四辺形をかく。	
(1) フリーハンドでかき、概形をとらえる。	・ 自分たちがかいた平行四辺形を見て、気づいたこと・かくときに気をつけることを発表させる。
(2) 2つの三角定規を使い、平行な2直線のかき方を使ってかく方法を考える。	・ 平行四辺形の定義について復習させる。
(3) 辺の長さが4 cm、3 cmの平行四辺形をかく。	・ 平行のかき方を復習させる。
(4) 辺の長さが5 cm、4 cmの平行四辺形をかく。	・ かき方を黒板に分かりやすくまとめ、自分のペースでかくことができるようにする。
3 平行四辺形のひみつを見つける。	・ 長さを変えて練習を重ねさせる。
(1) 平行四辺形の3つのひみつについて話し合い、まとめる。	・ 平行四辺形の定義を振り返らせ、辺の長さや、角度にも着目するように支援をする。
4 学習の振り返り（自己評価）をする。	・ がんばったことに関して賞揚し、次時の学習につなげる。



<考え方コース（青葉コース）>

- ねらい
- ・ 平行四辺形の辺や角に着目して見つけた平行四辺形の性質に基づき、平行四辺形のかき方を工夫して考えることができる。
- 評価規準
- ・ 平行四辺形の性質に基づいた平行四辺形のかき方を考えることができる。

展開

学 習 内 容	習熟の度合いに応じた手だて
1 辺の長さが4 cm、3cmの平行四辺形をかく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ かき方が分からない児童を集めて平行四辺形の定義を振り返り、二組の平行線をかいていけばできるという見通しをもたせる。
2 めあての確認をする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 平行四辺形のひみつを使って作図しよう。 </div>	
3 平行四辺形のひみつを見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平行四辺形の定義以外の性質を探していくという活動を理解させる。 ・ 「角の大きさはかってみよう。」 ・ 「辺の長さはかってみよう。」のヒントカードを用意する。
(1) 平行四辺形を調べて気づいたことを発表する。	
(2) 出た意見を3つのひみつとしてまとめる。	
4 3つのひみつに基づいた平行四辺形のかき方を考え、発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平行四辺形をかく方法は1通りではなく、その性質を利用してそれぞれかき方が考えられることを理解させ、自分の力に応じてかき方を複数見つけるよう意欲化を図る。 ・ どの道具が使えるだろうかというところから切り込み、解決の見通しをもつことができるようにする。 ・ 時中に出なかつたかき方は、調べたり、家の人に聞いたりしてもよいことを知らせ、自主的な学習活動につなげる。 ・ がんばったことに関して賞揚し、次時の学習につなげる。
(1) 3つのひみつそれぞれの性質を生かして平行四辺形をかく方法を考える。	
(2) 発表し合い、まとめる。	
5 学習の振り返り（自己評価）をする。	

(3)

研究の成果と課題

教師・児童ともに、習熟の度合いに配慮した学習の進め方に次第に慣れてきて、落ち着いた学習ができるようになった。

算数専科教員と学級担任が、互いの専門性を発揮しながら協力していく体制のもと、単元指導計画を立てたり、日々の打ち合わせや相談をしたりすること自体が研修になっている。

教師主導型の学習になりがちだった従来に比べ、児童の主体性・自主性が育ちつつある。例えば、学習課題が終わった後、次に何をしたらよいか自分で判断し取り組む姿や、昼休みや放課後進んで算数教室に自主勉強や質問をしに来る姿が見られるようになった。

児童がコースを選択することで、自分の算数の学力の様子はどうなっているのだろう、どこまで学力がついているのだろうと考えるきっかけとなり、自分の学力を分析的に見る目が育っていると思われる。

高学年で実施した観点別のコース分けでは、児童の学習意欲を高める効果が見られた。児童の立場から見れば、あまり、優越感・劣等感を意識せずに取り組めることや、コースも流動的に動ける自由さ、自分が学習の仕方を選択しているという自覚によるものと思われる。

低中高学年各算数教室の環境が、少しずつ充実してきた。今後も、3つの教室の系統性・連携を図りながら、かつ創意工夫を生かして、算数学習のキーステーションとなるような算数教室をつくっていききたい。



- (4) 研究成果の普及の方策
 参観日の授業で、積極的に習熟度別学習を公開し、保護者への啓発を図る。
 今治管内地区協議会において、地域の方や保護者、近隣小中学校へ普及を図る。
 各研究会や同好会などを通して、近隣小中学校の教員とともに研修する。
- (5) その他
 本取組に、「ぎんなん学習」という名称をつけている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】

- 習熟度別少人数指導のコース分けの規準とする観点(関心・意欲・態度、数学的な考え方、表現・処理、知識・理解)を明確にして、それぞれの規準に応じた学習指導を工夫している。
- 児童に、算数への興味関心を高めるための学習環境の整備に努めている。